

ネパールから

# サマソタだより



反差別草の根交流の会「サマソタ」ニューズレター

VOL.2 (2014年3月8日発行)

## 報告：サマソタ第一回総会

2013年10月27日、サマソタは第一回総会をNP0法人伊丹人權啓発協会（「おるかい」の会）で開催しました。参加者のお楽しみにと前日から準備したおいしいネパールカレーとチヤで昼食をとった後、参加者11名で行いました。小さなグループですが、13ページの議案書も用意しました。

まず、2012年度活動報告です。サマソタ会員9名、10+2就学支援の基金会員は12名で活動を開始しました。「サマソタだより VOL.1」で紹介した女の子たち3名に、初めての就学支援を行い、23,778円を送りました。入学金・授業料・学内定期試験の受験代・図書費・制服代など、学校に納める費用に使われます。彼女たちは毎日徒歩で1.5〜2時間かけて通学しているそうで、意志の強さがうかがえます。支援開始を記念して、ネパールのパートナー団体SAGUNの事務局長カマル・フヤルさんからネパールの教育事情を聴く講演会も行いました。カマルさんたちは、都市と農村・家庭環境・性別などで格差が大きいネパールで、公正な社会実現のために活動されています。サマソタのHPも作りました。まだまだ上位でヒットしませんので、どうぞたびたび訪ねてください。  
<http://samanta.japan.jimdo.com/>

続いて、2013年度の活動計画です。会員は現在の2倍をめざし、学生5名の支援を確認しました。2月28日、この「サマソタだよりVOL.2」に紹介している5名に、無事奨学金を送ることができました。ジェニーさんには、二年目の支援です。しっかりと成長されている様子に、夢をぜひ実現してほしいと願わずにおれません。

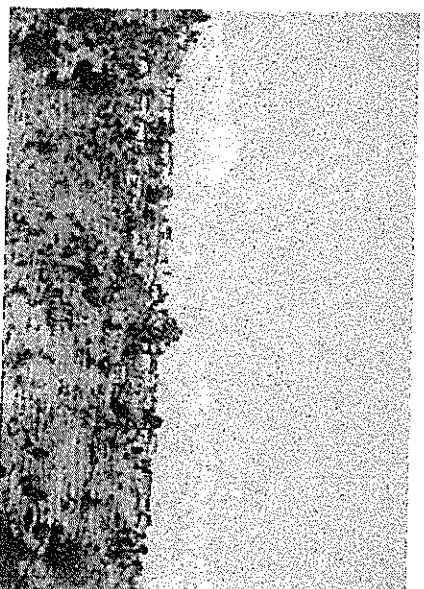
現在、サマソタは会員が少しずつ増えており、辛い、順調な活動ができています。引き続きのご協力をよろしくお願ひいたします。近い内、村を

訪ねて奨学生たちに出会うネパールへの旅も企画できたらなあど夢をふくらませています。また、サマソタは、差別のない平和で水豊かな社会を実現するために、ネパールの人たちと交流しながら、自分がやりたいことを仲間と実現する場です。MLもできましたので、どうぞ、積極的に関わってください。やりたいことのご提案を、待っています。

総会終了後、大森恵美さん（アジア女性自立プロジェクト・海外事業担当スタッフ）から、「人身取引から立ち上がるネパールの女性たち〜NGOシヤクテイ・サムハの活動から〜」というお話を聴きました。ネパールでは、年間5,000人以上の女性・女兒が人身取引の被害に遭っています。シヤクテイ・サムハはサバイバー自身が立ちあげ、被害者支援と人身取引撲滅に向けた活動を行っています。ネパールに帰国できて、NGOから支援を受けた女性たちは、自立した態度と行動を取れるようになりたいです。そういう彼女たちがめざす社会再統合（社会復帰）とは何なのか。大森さんは、もともと女性の地位が脆弱な家族や地域社会に復帰することなのだろうか、という問題提起もされ、深く考えさせられました。



カルピチヨークという名前は、人々が暮らしている村を見下ろしているペンパ・ガンダ（ザエツセルの丘）の頂上にいるカルポヨーホ（白い大地の神）に由来しているという伝説があります。大地の神は、地域の人々や動物や作物を守っています。そして、人々が平和で幸せに暮らせるように、毎朝白いライオンになって丘の頂上を歩きながら見守っています。だから、白い色は人々にとって「平和」の象徴です。村の特別な行事で年長者たちが平和を祈る時、偉大な神に敬意を払って、頭に白いターバンを巻きます。



パンナンチエから見たカルピチヨーク村

この伝説は、何世代にもわたって家族がそこで暮らしている家の子どもたちに、その地域への帰属意識を高めるようにと繰り返して話されています。彼らは成長しながら、段々畑を耕し、牛とヤギのエサや薪を集め、畑に水を引いてトウモロコシや雑穀を収穫する方法を学びます。彼らは、歌を歌って、踊って、丘に登り、お寺を訪ねて、祭りに参加することも知っています。こうしてずっと続いてきた人々の暮らしは、動物の飼育とわずかな稼ぎの労働によって支えられている自給自足の農業生活です。

しかし今、物がだんだんと人々の暮らしを変えてきています。自給自足の農業と村の生活だけでは、もう十分ではありません。近代化にもなると、村にも道路がついて市場ができ、親たちは子どもが学校に行くと、新しい技術や知識を学ぶことを望んでいます。人口が増えるに当たって、人々が必要とする物も増えました。人々が仕事と収入を得るためには、新しいやり方が必要になっています。物は、新旧交替の時期を迎え、村の生活も変わってきています。しかし、この移り変わりは、若者にとって容易なことではありません。若者たちが質の高い教育を受けることの困難さは、共同体の主要な問題の一つです。カルピチヨーク村落開発委員会には、333の家族が所属し、人口は2,000人です。

カルピチヨークの村々に、政府の教育省によって最初の学校が建てられたのはほんの15年ほど前です。今日でさえ、カルピチヨーク周辺にはたった4つの小学校があるだけで、通学のために最も遠い子どもは約45分間も歩かなければなりません。カルピチヨークには中学校はありません。そのため、高校に行きたい子どもたちは、ペンカルタールカチュエのどちらかの中学校まで行かなければなりません。どちらも二時間以上かかるうえ、寮がないので、女の子にとっては中学校を続けることは一層困難なことなのです。

しかし、学校までの距離の問題は、単なる問題の一つにすぎません。親たちの多くは、勉強ができる子どもを学校に行かせてやりたいくても、農作業に人手が必要なので行かせることができません。貧しさは家族にとって大きな問題であり、よりよい暮らしを手に入れるために高校を卒業して、技術を身に付けることができるのはごくわずかな若者だけなのです。適切な教育と技術を身に付けていない村の若者たちは、賃労働者として都市で働くか、仕事を探してペルンヤ湾岸諸国に移住するかのどちらかです。村にはいろいろの困難な問題がありますが、カルピチヨークの人々は、村によりよい変化をもたらす、子どもたちの学力を向上させるために熱心に取り組んでいます。大地の神の白色で象徴される「平和」は、カルピチヨークの人々の生の案内人です。

このカルピチヨーク紹介は、ムクタ・S・ラマさんが書いてくださいました。  
ムクタさんは、サグレンの代表、人類学・社会学専攻の大学教授。

## 2013年度 サマソタ 10+2 就学支援生 (5名)

### 支援 2年目…1名



名前	ジェニー ラマさん (Jenee Lama)
生年月日	1995年
学校名 (通学時間)	Shree Roshi Higher secondary School 12年生 (徒歩2時間)
SLCの成績	第2
家族	8人 (農民の世帯)
動物の飼育	水牛1頭・牛2頭・ヤギ4匹

### 【将来の希望】 いい教師になること

私は、Kharpachok VDC の Harre 村に住んでいます。村には、一つの小学校と、電気と水道の施設があります。村の大部分の女性は読み書きができず、伝統的な規範と迷信に基づく価値観を信じています。多くの村人は教育の価値と重要性について知らないのです。もし私が将来教師になれば、私は自分の村で働きます。私の目標は、教育分野で活動している組織や人々といいい関係を築いて、住んでいる地域に教育を広めることです。今、私は教育実習中です。教師になるために自信が付き、いい経験になっています。私は、特に小学校の小さな子どもたちを教えたいと思っています。公立学校の教育レベルは私学よりも低いので、私は公立学校で働きたいと思っています。教師になったら、教育の質をあげるために全力で尽くします。二年間のサマソタの支援を心より感謝しています。私は、この支援をずっと忘れないでしょう。

### 支援 1年目…4名



名前	カビタ トーカー タマソさん (Kabita Thoker Tamang)
生年月日	1996年
学校名 (通学時間)	Harisiddhi Secondary School 12年生 (徒歩2時間)
SLCの成績	第2
家族	6人 (農民の世帯)
動物の飼育	ヤギ3匹

### 【将来の希望】 実業家になること

私は、Kharpachok VDC の第4区 Pokhari Tole に住んでいます。村の人々の主な収入は、農業と家畜からです。私は、毎日2時間歩いて通学しています。それは大変なことですが、学校へ行くので幸せです。私の専攻はマネジメントです。マネジメントはビジネス・教育・医療などすべての分野でも重要です。現在、私の地域では、生協や銀行が増えています。しかし、そこで

働いている女性はずかです。私は、女性のエンパワメントのために女性による生協設立に関心を持っていきます。私の人生の二番目の目標は、女性の教育・社会状況を改善して、社会のすべての分野に参加できるようにすることです。私の地域では、多くの女性が非識字で苦しんでいます。その状況を改善するために貢献したいです。



名前	ジュニー マヤ タマング ラマさん (Juni Maya Tamang Lama)
生年月日	1995年
学校名	Harisiddhi Secondary School 12年生 (徒歩2時間)
SICの成績	第2
家族	8人 (農民の世帯)
動物の飼育	ヤギ8匹

【将来の希望】 ソーシヤル・ワーカーや教育の活動家になること

私は Kharpachok VDC の第3区 Tholo Goan に住んでいます。村の人々の主な収入は、農業と家畜からです。私は子どもの時からさまざまな問題に直面してきましたが、問題を恐れませんが、すべての人間は人生でさまざまな問題に直面し、「問題がある所には、解決策もある」と思うからです。多くのネパール人は「私たちの人生は苦しみで満ちている」と言います。しかし、苦しみは人生の目標を決めさせます。私の人生の目標は、家族や社会の発展のために尽くすことです。私の専攻は教育学です。教育は、個人や共同体や国をよくするための力になります。将来は、教育関係の活動家になって、女の子たちが学校へ通って、教育を受けるように活動します。娘を学校に通わせるように、すべての親たちを説得します。さらに、社会のいろいろな面での問題を改善する活動にも参加したいと思っています。



名前	カルパナ ラマ タマングさん (Kalpana Lama Tamang)
生年月日	1996年
学校名	Shree Pragati Kiran Secondary school 11年生 (徒歩2時間)
SICの成績	第1
家族	8人 (農民の世帯)
動物の飼育	牛2頭

【将来の希望】 教師、またはソーシヤル・ワーカーになること

サンボタの奨学金を受けて11年生で勉強できることになり、心より感謝しています。奨学金は、家族にとっても経済的な支援になっています。私の人生の目標は、将来いい教師になることです。私の国には、貧しくて、読み書きができない両親のために学校へ行けない子どもがたくさんいます。私は、村の貧しい子どもたちのために働こうと思っています。もし教師になれば

たら、私はいつも周縁化された人々を支援します。私の村には、読み書きができない女性もたくさんいます。将来、彼女たちのために識字教室を作りたいのです。私は、子どもの権利を守るためや、少女売買に反対するような社会活動にも参加したいと思っています。



名前	ウサリ ラマ タマングさん (Lasari Lama Tamang)
生年月日	1997年
学校名	Harisiddhi Secondary School 11年生 (徒歩2時間半)
SLCの成績	第2
家族	8人 (農民の世帯)
動物の飼育	水牛2頭・牛2頭・ヤギ5匹

〔将来の希望〕 教師、またはソーシャル・ワーカーになること

サマソタの奨学金を受けて11年生で勉強できることになり、心より感謝しています。奨学金は、家族にとっても経済的な支援になっています。私の社会には、失業・貧困・子どもや少女売買のような多くの問題があります。そこで、私たちはこれらの社会問題を解決するための計画を持たなければなりません。私は学校を卒業したら、教師になりたいと思っています。まず少女たちの教育を優先したいのです。私の国では、多くの学齢期の少女たちが学校へ行っていないからです。男女は平等ですが、私の社会では男性優位です。もし少女が教育を受ければ、家族全員が利益を得られるでしょう。私は教育を通じて、女性差別をなくしたいと思っています。

## こ 案 内

「サマソタ学習会」

### ネパール人移住労働者の現状 ―ネパールから見て、日本から見て―

講 師 : 南 真木人さん (国立民族学博物館教員、ネパール移住労働者の研究)

日 時 : 2014年3月16日(日) 14:00~16:00

場 所 : NPO法人 伊丹人権啓発協会 (「おるか」の会)

参加費 : 一般 500円、サマソタ会員 無料 ※どなたでもご参加いただけます。

主 催 : 反差別草の根交流の会「サマソタ」

## ■会員コーナー■

### ネパールのマイノリティに出会ったび



◆ネパールツアーのはじまり・・・2005年11月、ネパールのダリット解放運動をしている女性二人を部落解放同盟伊丹支部に迎え、「日々どんなふうに着別と向き合っているか」をテーマで交流しました。ダリットへの差別の実態を聞き、怒りと憤りをおぼえ、2001年、南アフリカのダーバンで開催された差別撤廃世界会議のワーキングツープで、ダリット女性と共に差別の実態を訴え、「怯むことなく人間解放をめざし、がんばっていきましょう」と抱き合ったことがよみがえりました。思わず「ネパールに行きたい！」と言うと、他にも「行こう！」「行きたい！」という声があがり、ネパール・スタデイツアーが実現しました。

◆ネパール訪問を通して・・・人として当たり前に生きる権利を人の手によって（政治、政策）奪われる苛酷な状況の中で闘いつづける人々との出会い、私自身の中に閉じ込められてきた感性の扉が開いた気持ちになりました。

◆「サマソタ」の誕生・・・ネパール滞在中、取り組みごとに、メンバーでふり返りや、それぞれの生き様などを語り合い、まさに人を知る、思いを知る、つながりが「サマソタ」誕生につながっていききました。

◆私の居場所・・・NP0法人伊丹人権啓発協会（「おるか」の会）で、高齢者のみなさんと、手づくり給食、和太鼓、創作など様々な取り組みに挑戦しています。どんなことをすれば高齢者が元気でいられるのかをスタッフのみなさんと話し合っています。逆に私たちの方が元気をもらっています。常に私の母の年齢（90才）に近い人たちと関わっていると、私自身とつとくに高齢者なのに、年齢のこととはどこ吹く風。まだまだパワー全開？再びネパールツアーに挑戦する体力も気構えも充分かなあ……………。

（池田 千津美）

## コラム 「日本の中のネパール」(2)

2012年12月末現在、日本に在留しているネパール人は24,069人で、2000年の3,649人と比べるると大幅に増加しています（超過滞在者を除く）。外国人が日本に在留するためには、在留資格（いわゆるビザ）が必要ですが、その資格別にみると、「家族滞在」（留学や就労で来ている人の家族）の6,991人が最も多く、次に、「技能」6,209人、「留学」4,793人、「永住」2,260人の順となっています。「技能」で滞在する人は中国について多く、ネパール料理・インド料理レストランのコックとして働く人が多いです。全国的にネパール・インド料理レストラン屋も急増しており、そこで働くコックの妻子が、本国から呼び寄せられて来るケースも増えています。都道府県別に見ると、最も多いのが東京都8,801人で、次に愛知県2,387人、福岡県1,567人、千葉県1,511人、神奈川県1,419人、埼玉県1,253人の順となり、首都圏と愛知県、福岡県に集中しています。ネパール人在留者の増加率は他の国に比べても突出して高く、その背景として、ネパールでの人民戦争期間から出稼ぎが増加したことも影響しています。

（山）

### 【編集後記】

この国はどこへ行ってしまおうのか、ととても心配な状況。「平和を守る白いらイオオソよ、出てきてくれ！」と折りたいような気持ちですが、やはり一人ひとりがしっかりしなければ、ですね。／第一回総会の議案書は欠席者を送っています。次号のたよりと一緒に送付しますので、ご希望の方は連絡をください。（K）

### サマソタだより VOL. 2

発行年月日：2014年3月8日

編集・発行：反差別草の根交流の会「サマソタ」

連絡先：兵庫県伊丹市平松7-1-16 山本方

E-mail: samanta\_sgidyahoo.co.jp

URL <http://www.samanta.japan.jindo.com>